

▼▼先生やおうちの方へ▼▼

▼父が作ってくれた風車（かざぐるま）▼

私の子どもの時、父が作ってくれた風車のことを思い出します。A図のような傘型のもので、材料はブリキです。煙突の継ぎ目のところに針金を刺し込んで、その先端に風車をのせたものです。煙突を取りまく上昇気流でよく回りました。自分でもできそうなので、作ってみたのですが、なかなか難しいものでした。

また、B図のような形の風車の作り方を教えてもらいました。材料は、桎（経木のような薄板、屋根ふくための材料ですが、今日、ほとんど見られない。）と、はがき、釘、筆の竹軸で、作り方は簡単でした。でも桎に釘を刺し込むと、割れてしまうことがあるので、熟練を要しました。板に普通の糊ではると、乾くのがもどかかったものです。ご飯つぶで作った”そくい”は、よくくっつくことも覚えました。私はいくつも作って遊びました。羽根に模様をつけて楽しんだり、友達にプレゼントしたり、作り方を教えてあげたりもしました。

ところで、今から10年ほど前のこと、ピーター・ブリューゲルの描いた名画中の一点”子どもの遊び”という絵を丹念に見ていたら、何と、父から教えてもらった風車と同じ型の風車で遊んでいる子が2人いるのを発見したのです。今のベルギーの、ブリューゲル村のあたりの子どもの遊んだ風車なので、私は勝手に、この型の風車を”ブリューゲルの風車”と名付けました。

▼父が作ってくれた池と噴水▼

また、家の庭に、小さな池をセメントで作り、そこに噴水を作ってくれたことを思い出します。家には水道が無かったものですから、便所の屋根に石油カンをのせ、そこから管を引き、池の中に噴水が出るようにしたものでした。ピンポン玉を噴水にのせると、上下に移動するのも見せてくれました。

別の例ですが、我が家が結婚式の会場になった時、鶴亀を、野菜、その他の材料で作ったのも思い出しました。その他、いろいろ、父が工作らしいことをしたのを見たり、教えられたりしたことがあります。略します。

▼街で流行していた七夕ちょうちん作り▼

七夕の夜は、親子づれでちょうちんを持って商店街を散歩する習慣がありました。市販のちょうちんを持って、歩く人が多いのですが、工作の好きな子ども達は、かんとか、ボール紙などでオリジナルな手作りのちょうちんを作ったものです。もちろん、軒下の七夕飾りにも工夫をこらしました。でも、今、自分で作ったちょうちんを持って散歩するなどということは、私の故郷でも無くなってしまいました。

▼私の発明した” 凧 ”について▼

私の娘が4歳ぐらいの時でした。娘にせがまれて凧を作ってやったことがあります。そうしたら、娘も凧を作ってみたくなったのでしょう。マッチ軸を組み合わせ、紙をはり、模様をつけたり、糸をつけたりしたのです。これは、空に舞い上がったりはしませんけれど、気持ちとしては上がったつもりで走っていたのです。ミニ凧を自分の考えで作ったのには感心したものです。創造したのですね。

しかし、突然、こんなことができたわけではなく、はさみの使い方とか、いろいろの材料で何かを作る経験から、生まれたものなのでしょう。材料を扱う経験は尊いものだと実感した一例でした。

その後、私は大学で、幼稚園や、小学校教師を志す学生の造形教育の講座を持つようになりましたが、幼児でも作れる性能のよい凧はできないものかと研究してみました。

随分試作しましたが、ついに40ページのようなものを考えました。凧に関する本を多く見たつもりですが、私の発明した凧と確信しております。私が作り方を教えた友人で、少々まちがって作ったり、変形したり、材料を変えたりした人もいますが、本筋をつかんでいけば、よく上がります。二見英成という方が私の功をたたえて”やまと凧”と命名してくれました。”やまとや凧”ではゴロが悪いからです。

▼大人の後ろ姿を見て子は育つ▼

私の幼な物語の一部や、娘の例で、お気付きだと思いますが、子どもは、大人（親、先生、社会人）が、何かを作っている様子を見て、まねをすることによって学ぶものだ、ということを述べたつもりです。そのものずばりをまねすることもあるでしょうが、大人の態度、作っている姿を見せてやるのがたいせつではないでしょうか。大人の様子を見て、これなら自分もやれそうだと思うと、子どもは挑戦するのです。

願わくば、この本の中にあるようなものを大人が作る姿を見せてやってほしいものです。やって見せ、やらせて「ほめなければ人は動かず」という名言もあります。

子ども同志の影響も大きなものです。つい数年前、パソコンで遊ぶことが大流行しましたが、このごろ、手作りのレーシングカーで遊ぶことが流行していると聞いています。誠に喜ばしいことです。

既成の玩具で遊ぶことから、手作りの玩具を作って遊ぶ風潮の、きざしかも知れません。

▼作ることの好きになる環境とアドバイス▼

前述の大人の姿については、精神的環境づくりとすることができます。

そして、物理的な環境を作ることによって、手作りがやり易くなります。

- ①よい道具を少しずつ増やしましょう。
- ②材料で購入しなければならないものを、買ってあげましょう。廃材を生かすよう協力しましょう。
- ③作業時間、場所を保証してあげましょう。
- ④参考書を用意したり、展示品などを見る機会を作り、興味を誘発しましょう。
- ⑤やたらに手助けせず、教えすぎず、適度な失敗をさせましょう。
- ⑥ほめてやりましょう。できた物を大切にしてください。

